
ショートショート二本。【噂の真相】【仲良し】

こめ

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

ショートショート一本。【尊の真相】【仲良し】

【著者名】

ZZマーク
Z7664C

【序文】

【あらすじ】
ショートショート小説です。一本。あらすじの方は、ご勘弁のほどを。

- 噂の真相 -

噂があつた。真夜中の十一時の合わせカガミで、未来の自分が見れるというもの。

それは最初、一部の人々の間で面白半分にささやかれだし、今は皆の知るところ。

町ではいわく「例のやつをやってみたが、なんの変化もなかつた」だの、「噂は本当だつた！本氣で、驚いた」だの、いろんな声が飛びかつている。

きてる服や周りの状態は変わらないらしい。それで判るというわけ。け。べつの未来人ではなく、自分であることが。

むろん、真相はやつた本人のみぞ知る。謎めいていて、神秘的。噂の特性。皆の、興味を引く理由だ。

なかには「そんな噂は信じない」と、強く反発する人もいるが、やはり気になつてしまふ。手軽にできること。我慢、できない。

いずれ噂の仲間に加わる。

そんな傾向は、若者に顕著だ。

A中学では例の噂の話題で持ちきり。あるクラスでは、こんな提案がなされる。

「皆で、噂の真相を確かめてみてはどうか?」と。

そして皆でワイワイガヤガヤ話を煮詰めていつた結果、一同が深夜の校庭に集合してやるのがよからう、ということになつた。

なるほど、それなら間違いない。ひとりでも将来の自分の姿がカガミに映つたら、そく周りの人に確認。超常現象が、実証されたことになる。

「あれは、目の錯覚だつたのでは?」、などと疑問を持つ余地がない。皆が、証人だ。

しかし、いざ実行に移す段になると反対をする者があらわれる。「わざわざそんなことまでして、なにも起きなかつたら馬鹿バカしいな」と。

むろんそれは、噂を誰よりも強く信じているからこそその発言。彼は怖くて尻込みをしている。落ちぶれた将来の自分の顔が、力ガミに映し出されるのを想像して……。

けつきよくは、各自の自由意思に任せることで決着がつく。ムリヤリ参加を強要する権利は、誰にもない。

それでも、かなりの人数が集まるのだろう。彼らの瞳は輝いている。押さえ切れぬ、好奇心で。

そしてその夜の校庭。小さな力ガミをふたつ手に持つたクラスメイトたちの姿がある。予想通りに、ほとんどの者が集合。皆の表情には期待と不安。期待の方が、はるかに大きい。

今日、ここに来れなかつた者たちは遅かれ早かれ後悔するな。皆が、そう思つてゐる。

もうすぐ十一時。参加者全員が校庭の真ん中にかたまる。月明かり。町明かり。合わせ力ガミ。あとは、その時がくるのを待つだけ。五分前、四分前、三分前……。

ゴクリと、固唾を飲み込む音。緊張が、広がる。
一分前、そして、一分前……。

カアーン、カアーン、校舎の壁時計が夜の闇を裂く。十一時！力ガミに映つていたのは いつもと変わらぬ、自分の顔。見慣れた、顔。近くにいる人から確認を取り合つていく。結果は、同じ。

あちらこちらから溜め息と笑い声がもれる。

先程までの緊張感がウソのように皆、ふざけ合つ。

まあ、こんなものだろう。噂は噂でしかなかつたな、と。

むろん、三々五々に家路を辿りながらも、皆の話題はひとつ。今日の出来事。

「噂は、まったくのデマだったな」

「だけど何」とも経験。思い出作りには、なつた「思い出」

「思い出」

「そう大人になつた時笑つて話せる、思い出」
彼らは、とりとめもなく喋り続ける。胸のつかえが取れたからだ
うづ。

今晩は、ぐつすりと眠れそう。

朝。よく晴れた街。そこでは、あの噂がささやかれる。相も変わらず、飽きもせず。

冷静なのは深夜の校庭に集まつた彼等ぐらい。皆で、噂の真相を確かめたから。

彼等はいろんな人にあの体験を話して聞かせる。夜の十一時の合わせカガミ、なにも起こらなかつたこと。皆で、確認し合つたこと。
しかし、噂は消えない。噂は、本当だつた。時間が、なさ過ぎた。
あの夜見たものは、三日以内の未来の自分。見慣れた顔なのも、
当たり前。

深夜の合せカガミをしてから三日後に、ある国が誤つて爆弾を発射する。最新型の、死の爆弾。

連鎖的に始まる世界戦。誤解から生まれた憎しみは憎しみを呼び、死の爆弾が世界中を飛び交うことに。

そしてわずか数時間で、地球上の生命はすべて滅び去ってしまう。

彼等に、それ以上の未来は残されていなかつたのだ。

【了】

・仲良し・

僕のお父さんとお母さんは生まれてすぐ出会いました。運命です。神様が、みちびいてくれたに違いありません。

だからお父さんとお母さんはとても仲良しです。いつでも、どこへ行くにもいっしょです。今までただの一度もケンカなんてしたことことがありません。

僕がこの世の中でこちばん尊敬するのはお父さんとお母さん。僕も、夫婦円満な家庭をきずくつもりです。自信はあります。子供はまだだけど、彼女はいるのです。お父さん、お母さんと同じように生まれてすぐに会いました。とても仲良しです。///ズに生まれて最高です！

【】

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n7664c/>

ショートショート二本。【噂の真相】【仲良し】

2010年10月10日14時35分発行